校内探検

10月19日
Sudden Fiction Project

高階經啓
hirotakashina

10月19日のおはなし「校内探検」

　君はまた学校にいる。ここはちょうど校門を入ったばかりのところ。あまり人影はなく、少し離れたところに低学年の子達が集まって何か騒いでいる。空は晴れ、天高くツウピーツツピーと鳥のさえずりが聞こえる。君は右手の建物にそって校舎へと続く回廊に足を運ぶ。

　そこは高校3年生の時のままで、いまの君は実際には現在の学校がもうこの通りではないことを知っている。なぜなら去年、久しぶりに用があって母校を訪れたからだ。大きな震災があって、母校もまた無傷ではなかったから、あちこちに変化があった。軟式テニスのコートはつぶされてなくなり、新しい建物が建て増され、通い慣れた校舎も建物こそ健在だったが、タイルが剥がれ落ちて危険だということで、表面はつるつるになってしまっていたのだ。

　でもいま君がいるのは、かつてのよく知っている姿のままの母校だ。君の脇をかすめて走っていくのはカゲヤマだ。いつも通りエネルギーに満ちあふれ、猛烈な勢いで校舎に駆け込んでいく。一瞬振り向いて笑う顔もおなじみの表情だ。それからカツノがやってくる。高校3年生の、あの時のままのカツノが。君は当時カツノのことが気になって仕方なかったから、あの頃のままにドキドキする。ろくに話をすることもできなかった。そんな君を見て楽しそうに笑うカツノの笑顔にますます君はうろたえる。

　校舎に入るとがぜん賑やかになる。低学年が教室から飛び出してきたり、甲高い声で騒いでいたり。階段を上がり職員室の前を通ると、数学の藤林先生がいかめしい顔をして出てくる。どうした。もう3時限が始まるぞ。君が卒業して間もなく不慮の事故で亡くなってしまった先生がここではまだ元気で、良く響く声で話しかけてくる。

　2階で手を振るアルバム委員のコジマはカメラ担当で、人気のない教室の写真を撮るのが上手だった。3階ではアルバム委員長で実行力抜群のコウキがにやにやしながら通り過ぎていく。4階の自分のクラスに近づくと、イベントが用意されている。そこには君自身を含め当時のクラスメート全員がいて、まだあどけない顔でせいぜい悪ぶって歓迎してくれるのだ。「ようこそ3年D組へ！　高3からやり直しますかー？」

　そう。そのセリフを考えたのは君自身だ。気の効いたセリフを思いついたと当時は思っていたが、今の君にはそれほど自信はない。他のみんなはこれを見て、聞いて、どう思っているのだろう？　ただ、校舎の中を歩き回ってこの言葉を聞くと君はふとそれでもいいかなと思ってしまう。このまま高3からいろんなことをやり直すのもいいかも知れないと。

　でも自由に歩き回れる校内探検はそれでおしまいで、あとは臨場感たっぷりだが視点の固定された短いクリップがほとんどになる。修学旅行、体育祭、文化祭、そして教室での静止画のスナップ。大きな行事の主要な場面が押さえられているがそれだけのこと。まるでその場に居合わせるように再現されているものの、そこにいる彼らには触れることはおろか近づくこともできない。

　君はヘッドセットを外し、ディスクを止める。いまから見ると稚拙な技術だが、当時としてはこのVR卒業アルバムのアイデアは画期的なものだった。君を含む当時のアルバム委員はテレビの取材まで受け、一時は本気でVR卒業アルバムの制作会社をおこそうかとまで考えたくらいだった。でもあっという間にそのアイデアを大人たちがビジネスにしてしまい、君たちの出る幕はなかった。

　間もなく多くのひきこもりの若者がVR卒業アルバムに入ったきりになるという現象が社会問題化した。彼らが入り込んだのは自分の母校ではなかった。どこか他の学校の卒業アルバムを手に入れ、その学校に入り浸っているというのだ。何かがおかしなことになっていた。結局このタイプの卒業アルバムは10年間ほどもてはやされたが、以後、ぱたりと制作されなくなる。

再びヘッドセットを手にとって、君は考える。明日は、明日こそは会社に行こう。その前にもう一度だけ校内を探検しよう。

（「卒業アルバム」ordered by こあ-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro）

感謝の言葉と、お願い＆お誘い

　Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？　もしも気に入っていただけたならぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブクログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

　「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそこのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただけると大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできるようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

　現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→公開中の作品一覧

　SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「Sudden Fiction Project Guide」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

　ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、Facebookページなどに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

　読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

　10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「急募！お題　この秋Sudden Fiction Project開催します」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！　はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

　こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひご一緒に盛り上がってまいりましょう。

校内探検

http://p.booklog.jp/book/35356

著者：hirotakashina
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/35356

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/35356

公開中のSudden Fiction Project作品一覧
http://p.booklog.jp/users/hirotakashina

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.